

4月29日

おとめシエナのカタリナ Catherine of Siena

(1347-80)

～おとめ教会博士～



St. Catherine of Siena

by カルロ・ドルチ

(c. 1665 - 70)

油絵

ダルウィッチ ピクチャーギャラリー

ロンドン

カタリナは、裕福な染物師、ジャコモ・ベニンカーサとその妻ピアジェンティの23人の子どもたちの末っ子として生まれました。幼い頃から活発で信心深かったカタリナは、染物屋街の向かいにあった聖ドミニコ会修道院の修道女たちの生活にあこがれるようになり、彼女たちの苦行生活を真似て行っていたと言います。カタリナは、幻をよく見ていました。1367年、彼女は幻視体験を通して「キリストの花嫁」となります。それ以来、外へ出て、貧しい人々、囚人、ハンセン病患者たち、伝染病患者たちを熱心に訪ね、かれらに仕えるようになりました。また、独学で読み書きを習得し、聖書、教父文書を勉強して、賢人となり、大勢の人が相談に彼女を訪ねました。

ある日、キリストは、片手にいばらの冠を、もう一方の手に黄金の冠を携えて現れ、カタリナに「どちらを選ぶか」と問われたところ、彼女はすぐ「いばらの冠をいただきます」と答え、キリストにならってすべての困難を引き受ける覚悟を決めます。1375年、カタリナはキリストの五つの傷を、彼女の体に受けます。それらの傷は目に見えませんでした。痛みはひどく、死ぬまで治りませんでした。

そのときキリストは、カタリナに語りかけられます。「わたしは、あなたに知識と雄弁の恵みを与える。各国を旅行して、国の権力者や指導者にわたしの望みを伝えるように」。そこから彼女は、多くの権力者に書簡を送り、教会と国家間の問題について助言を与えるようになりました。アヴィニヨンに亡命していた教皇グレゴリオ11世には、ローマに帰るようにと書き、教会の一致の回復を促したとされています。

彼女の残した情熱溢れる『対話』は、靈的作品の古典となっています。カタリナは、長い闘病生活の後、33歳で天に召されました。現在、イタリア、シエナ市の中心には、緑と白の縞模様の大石で造られたカタリナ大聖堂が建ち、そこには彼女の頭部が安置されています。